



りんご生産情報第6号
(6月26日～7月9日)

令和8年6月25日発表
青森県「農林水産力」強化本部

できるだけ早く仕上げ摘果を終える！
マメコバチの夏場の管理をしっかりと！
腐らん病の処置を適切に！

I 概 要

6月21日現在の果実肥大は、各品種とも平年を上回っている。

着果量が十分な場合は、品種別の標準的な着果量を目安に、できるだけ早く仕上げ摘果を終える。中心果だけで標準的な着果程度を確保できない場合は側果も利用する。

「7月初め」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で7月1～2日頃に実施する。散布むらが生じないように基準散布量を守り、降雨前の散布を徹底する。

マメコバチの巣箱は7月上旬頃に回収し、風通しの良い日陰に保管する。

腐らん病は見つけ次第適切に処置する。

ツキノワグマ出没警報発令中！

〔 農作業の際は、ラジオを携帯するなど、ツキノワグマによる人身被害の防止に努める。〕

Ⅱ 生育情報

1 果実肥大、結実状況、作業の進み、病虫害の動き

(1) 果実肥大

各品種とも平年を上回っている。

○果実肥大

(6月21日現在、横径cm、平年比%)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	ふ じ
黒 石 (りんご研究所)	本 年	4.5	－	4.3
	平 年	4.0	－	3.6
	前 年	4.2	－	3.8
	平年比	113	－	119
青森市浪岡北中野 (東青農林水産事務所)	本 年	4.5	－	3.9
	平 年	3.8	－	3.3
	前 年	3.8	－	3.3
	平年比	118	－	118
弘前市独狐 (中南農林水産事務所)	本 年	4.9	4.1	4.1
	平 年	4.1	3.9	3.4
	前 年	4.0	3.9	3.7
	平年比	120	105	121
板柳町五幾形 (西北農林水産事務所)	本 年	4.2	4.3	4.0
	平 年	3.9	3.9	3.4
	前 年	3.9	3.6	3.5
	平年比	108	110	118
三戸町梅内 (三八農林水産事務所)	本 年	4.7	－	4.1
	平 年	3.9	－	3.4
	前 年	4.3	－	3.4
	平年比	121	－	121

注) 各農林水産事務所のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

(2) 結実状況

園地や樹により結実にバラツキが見られている。

(3) 作業等の進み(6月23日現在)

ふじ等の摘果、袋かけ、徒長枝整理等が行われている。

(4) 病害虫の動き

(6月23日現在 りんご研究所)

腐らん病	摘果後の果柄感染継続中
黒星病	葉・果実とも分生子による2次感染継続中 殺菌剤無散布の県予察圃での新梢葉発病率（ふじ） （6月15日 本年：30.4%、平年：34.9%）
斑点落葉病	葉の病斑初発（本年：6月19日、平年：6月26日）
褐斑病	分生子による2次感染継続中
ハダニ類	卵～成虫が混在、幼虫～成虫が葉を加害中
リンゴコカクモンハマキ	※越冬世代成虫羽化終息日（平年：7月6日）
モモシンクイガ	越冬世代成虫の羽化及び産卵継続中
ナシヒメシンクイ	※第1世代成虫羽化初発日（平年：6月21日）
キンモンホソガ	第2世代卵主体（第1世代成虫羽化50%日 本年：6月7日、平年：6月17日）
ナシマルカイガラムシ	第1世代歩行幼虫の発生継続中。 まもなく発生盛期を迎える。

※調査園地にコンフューザーRが設置されており、対象害虫の誘引を確認できないことから、リンゴコカクモンハマキ、ナシヒメシンクイは平年値のみ示す。

2 作業の重点

(1) 「7月初め」の薬剤散布

「7月初め」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で7月1～2日頃である。地域や天候によっては散布時期が異なるので、前回の散布日や気象情報を参考にする。

「7月初め」の殺虫剤はピレスロイド剤を使用する。

前年にシンクイムシ類の被害がなく、周辺に放任園など発生源の見られない園地では、次回の「7月半ば」のシンクイムシ類防除剤を省略できる。

なお、早生種に散布する場合は、「収穫前日数」に注意して薬剤を選択する。

散布むらが生じないように基準散布量を守り、降雨前の散布を徹底する。

第8回目：「7月初め」

地 域	散 布 時 期	基 準 薬 剤	散布量／10 a
黒 石 弘 前 三 戸	7月1～2日頃	ピレスロイド剤	500L
		〔バイスロイドEW 2,000倍〕	
		〔イカズチWDG 1,500倍〕	
		アントラコール顆粒水和剤 500倍 又はパスポート顆粒水和剤 1,000倍 又はオーソサイド水和剤 800倍	

炭疽病の発生が例年多い園地や高温多湿条件が続いて多発が懸念される場合は、パスポート顆粒水和剤又はオーソサイド水和剤を選択する。

(2) 摘果

近年、成らせすぎや摘果の遅れによる隔年結果が見られている。良品生産や充実した花芽形成のため、できるだけ早く行う。作業が遅れている場合でも、仕上げ摘果は花芽形成前の6月末には終わるようにする。仕上げ摘果を終了した園地でも、見落としや成らせすぎの部分がないか必ず見直しを行い、適正着果に努める。

本年は園地や樹により結実にバラツキが見られるので、着果状況を確認しながら、以下のように摘果を行う。

ア 着果量が十分な場合

下表の「品種別の標準的な着果程度」を目安にすみやかに摘果を行う。葉が多く付いた果そうになった果実で、つる（果柄）が太く長く、肥大が良好で形の良いものを残す。枝の下面に成った果実や、逆さ実、果台が長い果実（ふじではおよそ2 cm以上）はできるだけ摘み取る。

イ 着果量が不足している場合

中心果だけで標準的な着果程度を確保できない場合は、形質の良い側果も利用する。雪害で枝量が少なくなった樹や結実不良により着果量が不足している樹は樹勢が強くなることがあるので、調節のために発育や形の悪い果実でも残すようにする。

品種別の標準的な着果程度

品種	摘果の強さ (残す果実)
紅玉	3 頂芽に 1 果
つがる・ジョナゴールド	3.5 頂芽に 1 果
ふじ・王林・早生ふじ・トキ・シナノゴールド・きおう・金星・シナノスイート・未希ライフ・ぐんま名月・さんさ・星の金貨・千雪・恋空・紅はつみ・秋陽・はるか	4 頂芽に 1 果
北斗	4.5 頂芽に 1 果
陸奥・世界一	5 頂芽に 1 果

(3) マメコバチの巣箱の管理

近年、マメコバチの数が著しく減少している。マメコバチの増殖を図るため適正な飼養管理に努める。

7月上旬頃に巣箱は回収し、直射日光が当たる所や高温になる所を避け、風通しのよい日陰に保管する。6月いっぱいまでは、巣箱に振動を与えると巣筒内の虫が花粉団子から落下し、死亡する恐れがあるため、巣箱をできるだけ動かさないように注意する。

保管する際は、野ネズミの被害や雨水の跳ね返りを避けるため、地面からできるだけ離す。また、箱の積み重ねや雨除けにも配慮し、巣筒の内部が過湿にならないように注意する。冬季に温度が上がるような場所（暖房する部屋や日光の入る閉め切った部屋など）には絶対に入れない。

(4) 袋かけ

ふじは有袋にすることで、つる割れの軽減や着色の向上、収穫期の分散ができるほか、販売戦略上も重要なため、個別の労働事情を考慮し、有袋栽培に取り組む。

袋かけは7月10日頃までに終えるようにする。

有袋栽培では、すす点・すす斑病やクワコナカイガラムシの防除対策を徹底する。

(5) 有袋栽培におけるすす点・すす斑病対策

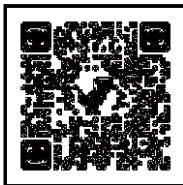
袋かけ前の薬剤散布が特に重要なので、散布間隔をあけ過ぎないようにし、果実にも薬液が十分付着するようにする。薬剤散布後5日以内を目安に袋かけを行いその後も袋かけを継続する場合は、次の定期散布までの間に、有効な薬剤による特別散布（実洗い）をしてから行う。

(6) 腐らん病対策

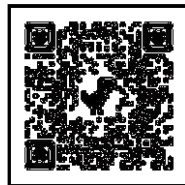
摘果後のつる（果柄）から侵入・感染するので、果台につるが残らないようにする。枝腐らんは、6月以降も発病してくるので、見つけ次第切り取り、適切に処分する。切り取った枝等は伝染源となるため野積みしない。

胴腐らんは、処置が不十分であったり、誤った処置が行われている園地もみられるので、再発病斑を含め処置する。処置方法については、令和8年4月23日発表「りんご生産情報第2号」を参照する。なお、青森県産業技術センターのYoutube公式チャンネルにも掲載している。

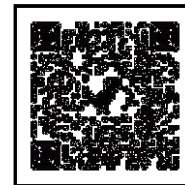
(<https://www.youtube.com/@aitcofficial/videos>)



トップジンM
オイルペースト
による治療



バッチレート
による治療



泥巻き法
による治療

(7) 炭疽病対策

例年発生が多い園地や高温多湿条件が続いて多発が懸念される場合は、「7月初め」にパスポート顆粒水和剤 1,000 倍又はオーソサイド水和剤 800 倍を選択する。伝染源となるニセアカシアやくるみ類などは、りんご園の周りから取り除く。

(8) ハダニ類対策

発生動向を見極めながら適正な防除を行う。散布の目安は1葉当たり2個体以上あるいは寄生葉率50%以上である。殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、年2回以内使用のものでも年1回の使用とする。

ダニサラバフロアブル、スターマイトフロアブル、ダニコングフロアブルは同系統の薬剤なので、合わせて年1回以内の使用とする。

コロマイト乳剤は、6月下旬までの使用を避ける。

オマイト水和剤は、7月下旬までの使用を避ける。

リンゴハダニとナミハダニに対する殺ダニ剤の適用表

薬剤名	年間使用回数	リンゴハダニ	ナミハダニ
サンマイト水和剤	1回	○	×
バロックフロアブル	2回以内	○	×
カネマイトフロアブル	1回	×	○
コロマイト乳剤	1回	○	○
エコマイト顆粒水和剤	1回	○	×
ダニサラバフロアブル	2回以内	○	×
スターマイトフロアブル	1回	○	×
ダニコングフロアブル	1回	○	×
ダニオーテフロアブル	1回	○	○

○：効果が高い、×：効果が低い

(9) シンクイムシ類対策

被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

もも、なし、日本すもも、プルーン、マルメロなども発生源になるので、適切な管理を行う。

(10) カメムシ類対策

果実が吸汁されると、果実肥大に伴い吸汁部位がくぼみ、奇形果となる。園内をこまめに見回り、成虫、卵塊、幼虫が確認されたら、すみやかに捕殺、除去する。

(11) 徒長枝整理と支柱入れ

7月は果実の肥大が盛んとなり、花芽が形成される時期である。樹冠内部に日光を入れ、薬液の到達をよくするために、不要な徒長枝を早めに切り取る。

なお、主枝や果実の日焼けの発生を防ぐため、過度な徒長枝の剪去は控える。

(12) 雪害樹の管理

ア 徒長枝整理

枝の欠損が大きい樹では、樹勢が強くなり、徒長枝が増える場合があるので、そのような場合は、徒長枝整理の時期を早める。

イ ビターピット対策

雪害の影響で例年よりも樹勢が強い場合は、ビターピットが多くなる懸念があるので、適宜、対策を講じる。

※ (13) ビターピット防止対策：カルシウム剤の散布方法参照

ウ 接ぎ木後に伸びた新梢の結束

接ぎ木や高接ぎ後に伸びた新梢は風で折れやすいので、添え木や支柱に結束する。

エ 雪害を受けた枝の支柱の手直し、側枝の吊り上げ

果実の肥大に伴い、復旧した雪害の傷口が、再度開いてしまう場合があるので傷口が開かないよう適宜見直しを行う。

オ 新梢長穂接ぎによる雪害樹の復旧

休眠枝で接ぎ木ができなかった場合は、当年に伸びた新梢を利用する「新梢長穂接ぎ」により復旧を行う。「新梢長穂接ぎ」は特に6月下旬から7月上旬が適期である。

新梢長穂接ぎは新梢を利用するので、穂木の確保が容易であり、また、早成りするため、早期の復旧が可能である。

ただし、穂木を採取する際には以下の点に留意する。

- ・登録品種は増殖の可否を確認する。
- ・高接ぎ病を回避するため、自園の、高接ぎを一度も行っていない、樹勢のよいマルバ台樹から採取する。

なお、接ぎ木方法については、青森県産業技術センターのYoutube 公式チャンネルに掲載している。

(<https://www.youtube.com/@aitcofficial/videos>)



(13) ビターピット対策

ビターピットは、幼果期の少雨、夏期高温の気象条件下で発生しやすい。近年、この条件が続いているため、積極的にビターピット対策を実施する。

下表によりカルシウム剤を直接果実に付着するように散布する。樹勢の弱い樹や高温時、あるいは干ばつ時には薬害発生（葉縁褐変など）の恐れがあるので避ける。

カルシウム剤の散布方法

資材名	散布時期 (散布間隔)	資材形状	水 100ℓ 当たり 使用量 (倍数)	散布回数 (回)
スイカル	6 月上旬～9 月中旬 (10 日以上)	粉状	330 g (300 倍)	3～5
セルバイン	6 月上旬～9 月上旬 (10 日以上)	粉状	250 g (400 倍)	3～5
アグリメイト	6 月上旬～9 月中旬 (15 日以上)	液状	200 ml (500 倍)	5

(14) 縮果病（ホウ素欠乏）対策

欠乏症状が見られたら、直ちにソリボー（葉面散布用ホウ酸塩肥料）を 1,000 倍（水 100ℓ 当たり 100g）の濃度で 7～10 日おきに 2 回散布する。

(15) 風害防止対策

台風の接近や強風に備え、防風網やわい性台樹の結束状況などを再度点検し、補強や取り替えを行う。

幹や主枝などに空洞が生じている樹、雪害を受けた樹や枝、腐らん病の被害を受けた樹や枝は、支柱で支え、縄などで補強する。幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

3 その他一般作業

(1) 追肥（6月末まで） (2) 草刈り (3) ひこばえ、徒長枝の整理

4 今後の作業予定（7月10日～7月24日）

(1) 摘果の見直し (2) マメコバチ巣箱回収 (3) 薬剤散布
(4) 徒長枝の整理 (5) 高接ぎ樹の誘引及び結束
(5) 支柱入れ、枝つり (6) 腐らん病対策 (7) ビターピット防止対策
(8) 草刈り

青森県農薬危害防止運動展開中（6月～8月）！

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

農林水産省「農薬登録情報提供システム」 (<https://pesticide.maff.go.jp/>)

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせるようにしましょう。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布しましょう。

《 熱中症対策を行いましょう！ 》

◎熱中症予防運動を展開中です（6月1日～8月31日）

熱中症による緊急搬送者が近年増加傾向にあります。こまめな休憩をとり、水分・塩分補給を行い、熱中症を予防しましょう。

◎労働者への熱中症対策が義務化（罰則あり）されています

昨年6月に労働安全衛生規則が改正され、労働者を雇用する全ての事業者に対して、熱中症対策が義務付けられました。

熱中症対応フローなど必要事項を記載した「張り紙」を事務所等に掲示しましょう。

「張り紙」のひな型については、青森県農業・就農情報サイト「農なび青森」に掲載しています。



《 ツキノワグマ出没警報発令中！！（4月20日～11月30日） 》

- ・1人での作業をできるだけ避け、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に努めましょう。
- ・果実等の収穫残さや弁当の空容器などは、クマを引き寄せる原因となるため、農地に放置せず、適切に処理しましょう。
- ・農地周辺の藪を刈払って見通しを良くすることで、クマの隠れ場所を無くし、クマが農地に近づきにくい環境を整えましょう。
- ・詳細は県ホームページをご確認ください。

(https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shizen/kuma_cyuui.html)

《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを！ 》

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。
詳しくは、お近くの農業共済組合まで、お問い合わせください。

《 りんごの雪害を補償する「果樹共済」の加入申込み受付中です 》

今冬も記録的な豪雪により、りんごの枝折れや幹割れ等が発生し、過去最大級の被害となりました。
りんごの雪害を補償する「果樹共済」の総合一般方式と樹体共済の加入申込は、7月3日（金）までとなっています。
加入申込やご相談は、お近くの農業共済組合（本所・支所）にお願いします。

農作業安全を心がけましょう！

山火事など火災の発生防止に努めましょう！

次回の発行は令和8年7月9日（木）の予定です。

連 絡 先：りんご果樹課生産振興グループ
電話番号：017-722-1111 代表
内線5144、5149
017-734-9492 直通